調査・研修等計画届出書

令和　4年　9月26日

瀬戸市議会議長　様

議員名　　西本　潤　㊞

政務活動　として、下記のとおり調査・研修等を実施いたします。

記

期　日	令和　4年10月13日から10月14日まで（1泊2日）	
調査先・研修名	長崎県長崎市（第84回　全国都市問題会議）	
会場名（会場所在地）	長崎県長崎市　出島メッセ長崎	
調査・研修の目的 （今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて）	第84回　全国都市問題会議 個性を活かして「選ばれる」まちづくり ～何度も訪れたい場所になるために～ 第1日　10月13日（木） 　基調講演・主報告・一般報告3件 第2日　10月14日（金） 　パネルディスカッション・行政視察	
議長名の依頼	要　・　不要	依頼先（名称）
同行者名	山田治義・宮薗伸仁・髙島淳・柴田利勝・三木雪実 長江公夫・冨田宗一・小澤勝・西本潤・朝井賢次	

※行程表を添付してください。

調 査 ・ 研 修 等 報 告 書

令和　4年11月7日

瀬戸市議会議長　様

議員名　西本　潤　　㊞

政務活動として、下記のとおり調査・研修等を実施したので報告します。

記

期　日	令和　４年１０月１３日から１０月１４日まで（１泊２日）
調査先・研修名	長崎県長崎市　（第84回 全国都市問題会議）
会場名（会場所在地）	長崎県長崎市　出島メッセ長崎
調査・研修の目的 （今回の調査･研修に係る瀬戸市･自己の現状と課題を踏まえて）	第84回　全国都市問題会議 個性を活かして「選ばれる」まちづくり ～何度も訪れたい場所になるために～ 第１日　10月13日（木） 基調講演・主報告・一般報告３件 第２日　10月14日（金） パネルディスカッション・行政視察

調査先の事業の現状・課題　／　研修で学んだこと・キーワード等

第１日　10月13日（木）
基調講演 民間主導の地域創世の重要性
株式会社ジャパネットホールディングス代表取締役兼CEO
高田 旭人

1. ジャパネットと地域創生
人口減少は日本社会全体の課題であり、それぞれの地域に一定密度での人口が維持できなければ、地方都市を運営することができず、地域に根付いた祭り、食、ことば、工芸など様々な文化を次の世代に引き継いでいくことができない、「なぜジャパネットが地域創生を？」と思われる方も思うが、2017 年より長崎

のプロサッカークラブ「V・ファーレン長崎」の運営を始めたことをきっかけに、地域を盛り上げていきたいという想いが強くなった。プロサッカークラブの運営を通して、通信販売のみならず、スポーツやまちづくりにおいても、事業方針として掲げてきた「見つける」「磨く」「伝える」を活かすことができるのではないかと考えるようになった。

現在、ジャパネットグループでは通信販売事業に並ぶ 2 本目の柱として、スポーツ地域創生事業を揚げており、長崎駅前にスタジアム・アリーナや商業施設、ホテル等で構成するまちづくり「長崎スタジアムシティプロジェクト」を進め、2024 年の開業を目指している。

2. 行政と民間の役割の違いについて

長崎を盛り上げるためには、人口を増やし、経済を活性化し、地域資源を活用して地域に魅力を広く伝えていきたいという想いは、民間企業も行政も、目指すゴールは同じであるが、そこへ行きつくための手段は大きく異なる。

行政は、皆が平等公平に恩恵を受けられる環境づくりを目指しているため、どうしても全方向への配慮が必要となり、スタジアムを作る際に、サッカーだけでなく陸上界への配慮からトラックも作る必要ができて、グランドとスタンドの距離が遠くなってしまう、VIP 席をつくると公平でないと批判を受けてしまうこともある。一方、民間企業はどうか？全ての人の願いを平等に叶えることはできないかもしれないが、社会全体における幸せの総量を増やすことが民間企業の役割である。VIP 席で収益を確保することでゴール裏席は、臨場感を感じながら比較的安価で応援することができる。公平性に左右されない民間企業であるからこそ、行政にはできない思い切った取り組みをする必要がある。

3. 長崎スタジアムシティプロジェクトへの想いと目指すところ

長崎をはじめ転出超過が続く地域は、何が要因にあげられるだろうか。それぞれの地域に魅力がないとは思わない。例えば長崎は、海に囲まれ、新鮮できれいな空気を吸いながら、日々生活することができるし、魚介をはじめおいしい食材を食することもできる、異国情緒を感じることもできる。都市部は、路面電車や路線バスなどの交通網が発達し、暮らしやすいことも特徴で、非常に魅力的なまちであると感じている。長崎で暮らす人に、長崎の可能性をもっと信じてほしい、「長崎は楽しそう」「長崎に行ってみたい」と思ってもらえると考える。これこそが長崎スタジアムシティプロジェクトを行う理由である。また、我々が目指すスタジアムシティは、決して観光客に向けてつくるのではない、地元の方にも公園のように気軽に来ていただき、楽しんでほしいと思っている。しかしながら、長崎でこのようなことをやっても無駄だという声を聴く事もあるが、民間企業としてリスクをとり本気で進めることで、地方でも「できる」という実績を作り、最終的には長崎県内の人口が増加し、地域経済もよい方向

に動き、地域への誇りや自分自身の幸福度も上昇する姿を目指したい。

4. 長崎スタジアムシティプロジェクトで実行するアイデア集

長崎の姿を実現するために、企画・検討していることを紹介する。

① 荷物の持ち込みを禁止にし、ロッカールームをたくさん配置する
入り口での荷物チェックを簡素化し、利便性の向上と運営コストの削減を目指す。

② 試合後の出庫時間に応じて駐車料金を変える
試合終了直後の出庫は割高に、試合終了後2時間経過したあとは割安にすることで、渋滞を分散させる。

③ スタジアム・アリーナを活用し、賃貸面積が少なくても快適なオフィスを実現する。
会議室などのスペースを共同利用できるため、その分入居企業は賃貸料を抑えることができる。

④ 年間シート購入者には、高速Wi-Fiを提供する。
試合時にはWi-Fiアクセスが集中し回線が混雑するため、年間シートを購入した方に特典として高速Wi-Fiを提供する予定。

⑤ 商業施設の使用ターゲットを昼夜で変えて、稼働率を上げる。

⑥ スタジアム非稼働日の演出を工夫する
サッカーの試合で稼働する日以外に楽しめる演出を行い、日常的に人が集まる場所にする。

⑦ スタジアムのVIPルームは、試合がない日はスタジアムが臨めるホテルとして活用。
試合がない日もフィールドの空気を感じられる部屋として宿泊できるようにしていく予定。

⑧ 美味しいビールを作ることで、車の交通量を減らし、渋滞緩和を狙う。
来場者がビールを楽しめば、公共交通機関を使用することにより、渋滞を緩和することができる。

⑨ 試合前後にスタジアムで楽しめるサッカー・バスケットの特集番組をつくり、スタジアム内で放送する。

⑩ 語学とスポーツを両方同時に学べるスクールを開設する。

⑪ 長崎大学大学院を誘致し、オフィスへ入居する企業との交流を促進する。

5. 行政に期待すること

我々は、民間企業としてもっと長崎を盛り上げたいと思っている。しかし、民間企業の力だけではできないことも数多く存在する。例えば、長崎スタジアムシティ周辺の渋滞への交通網対応など、我々だけではできないため、「地域を活性化させる」という同じゴールの絵を持って、皆さんと一緒に理想の地域創生

を実現したいと思う。行政だからできること、民間だからできること、今こそ官民そしてそこに住む地域住民の方々と連携し、地域全体の幸福の総量を増やしていきたいと思う。

主報告　長崎市の魅力あるまちづくり

長崎県長崎市長　田上 富久

1. はじめに

長崎市は、総面積 405.86 ㎢、人口約 40 万人を有する中核市である。長崎港内の平坦な中心部の地区には、商業・業務機能が集結している。第二次世界大戦中には広島に続き原子爆弾による災禍を被った、戦後は、核兵器廃絶と世界恒久平和を訴える国際平和文化都市としての役割を果たしている。

2. 長崎市の交流の歴史

長崎市のまちは、約 450 年前の開港から現在まで、港を通じて、たくさんの人を受け入れ交流することで栄え、国内外のさまざまな文化を取り入れながら、豊かな個性を持つ都市として発展してきた。時代によって交流の形は変わっているが、はじめは 1571 年の開港から江戸時代にかけて、キリスト教の布教、禁教、そして鎖国と目まぐるしく状況が変化する中で、世界の様々な文物がもたらされ、文化交流が行われるなど、長崎のまちは「貿易都市」として栄えた。幕末は、英国人貿易商であるトーマス・グラバーなどを通じてもたらされた西洋の産業・技術が、明治政府の殖産産業政策につながった。第二次世界大戦後は、世界に二つしかない戦争被爆地となりながらも復興を果たし、長崎のまちは、長らく「観光都市」として発展してきた。

3. 時代の変革期

近年のめまぐるしい変化に直面しているのはどの都市も同じで、新型コロナウィルスの流行による行動の制限や経済の低迷また、ポストコロナ社会への対応などさまざまな変化に対応することが求められている。例えば、2019 年に長崎で生まれた HafH という仕組みがある。HafH は世界中の関連宿泊施設を利用し、旅行や仕事ができる定額制の住居提供システムであり、新しい旅と働き方のスタイルとして、全国的に注目され、コロナ禍中で成功している事例の一つである。価値観はますます多様化しており、暮らしやすさや歴史・文化の深さなどその都市ならではの価値にも注目されるようになってきた。この新たな価値を求めて大都市から地方へと新たな人の流れが生まれ始めている。

4. わがまちの価値とは？

(1)価値を見つける

「価値を見つける」という視点では、2015年に世界遺産に認定された「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」構成資産の一つである端島炭鉱(軍艦島)が挙げられる。生活していた人にとっては、日常生活の 1 ページにすぎなかったものが、産業革命遺産としての切り口で見直したときに、世界的な価値が見えてきた代表例である。身近にある特別な価値が見えていなかったものでも、見る角度を変えることで、新たな価値が見つかることもある。

(2)「長崎さるく」は団体旅行から個人旅行に変わってきた時代に、新しい観光スタイルに対応させるために始めた全国のまち歩き観光の先駆けとなった取り組みである。住んでいる市民が地域資源の価値に気付かないと持続可能な観光は実現しないという思いから、日頃から市民がよく通るような道も、価値があったことに気づき、愛着がわき、シビックプライドの醸成にもつながった。

(3)価値を磨く取り組みとして、全国的にもほとんど例がない景観専門監制度の導入がある。景観専門監には、地域の「部分」と「全体」の関係性への配慮や、場所の歴史を踏まえた考え方、市民との協働など、職員だけでは気づきにくかった視点から、さまざまなアドバイスをいただきながら、長崎駅周辺再整備事業や出島表門橋の架橋などの大型事業や、市内各地の公園や道路や建物などの整備・改修を進めてきた。こうしたまちにあるものの価値を磨く取組の積み重ねが、街の価値をさらに高めることにつながる。

(4)価値を生み出す

最後に紹介するのは、新たに創造することにより、価値を生み出すという視点である。その一例として、(株)ジャパネットホールディングスが進めている「長崎スタジアムシティプロジェクト」がある。交流人口の増加や雇用の場を創出することで長崎市の課題解決にもつながる。ほかにも、地域の課題を発想の転換で資源として捉え、新たな価値を生み出す場合もある。その事例として市民団体が取り組む、坂のまち長崎ならではの「さかのうえん」という取り組みがある。この取り組みは斜面地の老朽空き家除去後の跡地を、農園として有効活用するという観点から生まれたもので、地域活性化などにつながっていく事例は、これからの地方都市の政策のヒントになっていくと考える。

5. おわりに

長崎市では、これまで述べてきた 4 つの視点で価値を見つめなおしており、そのまちの価値に気付く契機には、やはり「交流」が欠かせない。交流することにより、暮らしている中では見つけにくいその都市ならではの自然、文化、歴史などの新たな価値が見つかり、磨かれ、まちの価値が創られていく。

一般報告　地域との新しい関わり方・関係人口

島根県立大学 地域政策学部准教授　田中輝美

◎関係人口という言葉をはじめて聞いた方や、耳にしたことはあるが詳しくは知らないという方も多いかもしれない。関係人口とは

・若い世代と関係人口
・観光以上、定住未満
・「選ばれる」ための新しいインフラ・・・など。

◎すこし単純化しすぎる面はあるものの、よりわかりやすくするために、地域と関係人口を、野球のチームに例えて考えてみる。関係人口は「助っ人外国人」となる。いい助っ人外国人に来てもらうには、自分たちのチームの課題と戦力を踏まえてどんな助っ人外国人が必要なのかをイメージしたうえで募り、力を合わせてともにいいチームをつくろうとする姿勢が求められる。関係人口政策に取り組む、または取り組もうとしている自治体関係者に今一度自問してほしいのは、自分たちのチームの課題や戦力把握することなく、必要な助っ人外国人像も見えないまま「内部の選手が減っているんだからとりあえず１人でも多くの助っ人外国人を呼んできたらいい」という「とりあえず関係人口」に陥っていないか、ということだ。関わりがいのあるチームとは、どんなチームで、どうつくっていけばいいのか。「選ばれる」まちを目指した時の第一歩は、この問いから始まるのではないだろうか。

一般報告　ビジョンを活かしたまちづくり～「選ばれる山形市」を目指して～

山形県山形市長　佐藤孝弘

◎山形市は明治以降は山形県の県都として行政の中心的な役割を担ってきた。平成３１年４月に中核都市圏を形成している。「樹氷」がみられる蔵王温泉スキー場など、自然や歴史が織りなす地域資源にあふれるまちです。寒暖差が大きく良質の水に恵まれた環境にあることから、つや姫などのブランド米や山形牛など、四季折々の美味しい食が楽しめるまちです。そうした山形市が「選ばれるまち」となるためには、市としての明確なビジョンを定め、さまざまな政策をそれに結び付けて展開するが重要である。

・２大ビジョン-「選ばれるまち」となるための基本的な考え方
・「歩くことをベースとした健康で暮らしやすいまちづくり
・「公共交通の充実」による徒歩の補完
・文化芸術を通じて持続的発展を目指す

◎以上のように、将来ビジョンと結びつけた各種政策を展開した結果、まちが向かうべき方向性がはっきりし、市民や企業が連動して同時多発的に様々な取り組みが進むという現象が起きている。今後も、こうした方向をさらに推し進めながら、対外的な、発信も強めることで山形市が何を目指しているのかということを市内外の

方に多く知っていただき、その方向性に沿った人材が集うことによって、結果として、「選ばれるまち」になっていくものと考えている。

一般報告　「交流の産業化」を支える景観まちづくり～長崎市景観専門監の取組～
一般社団法人地域力創造デザインセンター　代表理事　高尾忠志

◎近代以降に長崎市の地域経済を支えてきた産業が縮小し、長崎市は我が国の自治体でもトップクラスの勢いで人口が減少している。長崎市民の暮らしと経済を支える新しい産業を確立し、持続可能な地域社会と地域経済を確立することが、長崎市のまちづくりにおいて重要な課題となっている。上記のような背景から、長崎市の田上富久市長は、まちづくりの戦略として「交流の産業化」を掲げ、観光産業を新しい基幹産業として位置付けている。このまちが海外に開かれた交流交易の場であったからこそ都市として成立してきた、という「地域のオリジン（原点）」を顧みた確かなビジョンといえる。オリジンとオリジナリティに育て上げる地域戦略を実現することで、長崎のまちは長崎らしい個性を持った選ばれる地域となりえるだろう。

・長崎市景観専門監の導入
・時代が求める価値とは
・地域創造に向けたデザインマネジメント
・人材こそ未来

◎現代において地域が抱えている課題は、これまでの縦割りの組織体制による分野ごとの施策実施では到底太刀打ちできない。縦割り制度の中で、分野の境界を越え、ビジョンを持って仕事に取り組む人材が自治体に多く存在している地域が、分野融合型のクリエイティブな成果をだし、より良い地域になっていく。まちづくりを行うのは人であり、特に自治体職員はそのハブを担う重要な存在である。こうした観点から、職員育成という「人的資本」、人のつながりという「社会関係資本」に投資する自治体戦略としても「景観専門監」は非常に意味深い仕組みだと感じている。

第２日　10 月 14 日（金）
パネルディスカッション「選ばれる」まちづくりに向けた都市自治体のアプローチ
東京都立大学法学部教授　大杉 覚

◎まちづくりとは、「それぞれの地域で醸成されてきた、根っこにある地域価値を再確認しつつ、そこを起点にして、これからの未来図を地域で思い描き、その実現を試みようとする、価値実現のプロセス」だと定式化して考えることができる。「選ばれる」まちづくりを考える際にも、あえてこの「根っこにある地域価値」出発点に問いたいと思う。「根っこにある地域価値」とは何か。まちづくりでは地域の歴

史に加えて地域の価値の模索が重要だとしている。地域価値とは、地域資源や宝、昔から伝わる祭りや郷土食といったものに関心が向けられてしまうが、そういったものの陰にある、「じつはそこに暮らす人々の日常を支え、暮らしに欠かせない大切なもの」を支える価値のことである。このように考えると、歴史の中で育まれた地域価値は、それを基盤に暮らしや交流を通じて地域資源に磨きをかけ、それらが地域の誇りや宝としてきたと捉えることができる。そうした誇りや宝があるからこそ、その地域での未来を見据えた新たな価値を希求する原動力や基盤となると考えてよいだろう。地域価値は、地域づくりの根っこにあたるが、その地域での暮らしぶりや地域資源のあり様と相互に影響を与え合ってきた関係にあるということでもある。

パネルディスカッション　人が人を磨き、輝く人が人を呼ぶ
～「雲仙人プロジェクト」の試み～

ゆとり研究所所長　野口智子

◎地域おこしを頑張る人は既にいる

2018年から私が本格的にここへ通い、地域力アドバイザーの立場で3年間通うことになった。目的は地域活性化ではあるが、まずは、地域の方々にお会いすることから始めた。地域おこしといっても色々な活動をしていました。「こんなに頑張っている魅力的な人がいるなら、この土地はもうこれでいいのでは？」というのが当初の感想であった。

◎でも、知っているようで知らない

同じ市の中で、結構目立つ活動をしているのに、その人たちがよく知りあっていない。すぐ近所の人を、知っているようで知らないのだ。キラキラ輝く人はいるのに、つながっていない。世の中、交流、関係人口、移住と人の取り合い合戦のようなことが行われている。でも、人を呼び込む前に、住んでいる人同士が深く知り合って、お互いを尊重し、しなやかなスクラムを組むのが先なのではないだろうか。その居心地の良さによそ者を混ぜてあげる、そうなるのがまず基本なのではないかと思う。

◎「雲仙人」ネットワークを立ち上げ

同じような人の群れでは混沌とした面白さがない。いつもの会議がいつものメンバーで行われ、同じような話の繰り返しになりがちだ。ならばよそ者が言いだしっぺになって、既存の団体に関係なく、人が集まってお互いを知りあう場を作ろうと考えた。この指とまれで集まるネットワーク型のつながりだ。集まりに何か名前を付けようと、「雲仙人（くもせんにん）」とした。

◎理屈をこねないちいきおこしもある

形を定めない「雲仙人サロン」の開催の中で、ついつい理屈をはっきり語り、な

にか活動している人だけが地域を盛り上げているように思うが、語らない人たちも地域を思い何かができるということだ。地域おこしは理屈を並べるのではなく、普段の暮らしの中で横の人を気遣う、自分のできることの中で地域を意識する事なのだと知った。

◎あの人どうしてるかしら、の関係を

人は日々変化します。人と人がいい出会い方をすると、もっといい変化が起きる。そうゆう変化をしていく人がたくさんいる町こそが、魅力的だと思う。「あの人どうしているかしら」「あの人どんな風に変わったかしら」と遠くからいつも思って、ついついまた会いに行きたくなる、そんな人たちは増えていくことが大事なのだと思う。

パネルディスカッション　ワーケーションの意味の拡張と変異

山梨大学生命環境学部地域社会システム学科教授　田中 敦

◎政府が本格的に「ワーケーション」の推進を宣言してからまだ2年ほど。短時間で急速に知名度を上げながら、ワーケーションは意味を曖昧にしたままさまざまな施策が進められ、その結果、各々の思惑や課題のもと、既に多様なワーケーションが生まれている。改めてワーケーション推進の経緯や当初の目的を概観したうえで、ワーケーションの概念が拡張、変異してきた背景や経緯についてレビューを行うとともに、新たなフェーズに入ったワーケーションの今後の方向性について考えてみる。

◎新たな旅のスタイルとしてスタートしたワーケーションは、独自に拡張を続け仕事を持ち出して都心部以外に滞在するという、活動を包括的に表す概念へと変異していった。「仕事を職場の外へ持ち出すことで長時間の滞在、複数回の訪問」を促すさまざまな活動をライフスタイルとして定着させれば、結果的に移動を促進し旅行需要を拡大していくための総合的な施策としてとらえることができるかもしれない。一方で、コロナ渦の副産物として生まれた新たな価値観や生活パターンが、まさにワーク＆ライフスタイルの変革を加速させている、ともとらえることができる。ワーケーションを「マジックワード」とした社会変革は、まだまだスタートを切ったばかりである。

パネルディスカッション　人は人に会いに行く～「まち歩き」で見つけた“まちのつくり方”～

NPO法人 長崎コンプラドール理事長　桐野耕一

◎長崎は今、長崎駅を中心に100年に1度といわれる「まちづくり」が進んでいる。2018 年新県庁舎を始まりとして、在来線の新駅舎、出島メッセ長崎、2022 年 9 月には西九州新幹線が開業し、2024年には、長崎スタジアムが完成する予定だ。

一方で、古より長崎の母屋として賑わってきた「まちなか」では、市民と協働した「まちぶらプロジェクト」が進んでいる。市長の認定をもらうことで、その活動が確実に長崎のためになるという安心感が生まれ、市民のやりがいづくりに大きく寄与している。

◎「まち」の良さを伝えるには、自分が誰よりもそのまちを愛することだ。まちを愛している{人}が話すからこそ、訪れる人が自分のまちや思い出に重ねて共感し、自己肯定が生まれ、自分のまちや家族そして自分自身が大好きであることの再確認につながるのだと思う。

パネルディスカッション　人口減少先進地の挑戦

～ファンと共に取り組むまちづくり

岐阜県飛騨市長　都竹淳也

◎飛騨市は、岐阜県の最北端に位置し、人口２万7000人ほどの過疎地である。2　004年に２町２村が合併し、人口３万人で誕生したが、全国の倍のスピードで人口減少が続いており、高齢化率も40%程度、既に日本全体の30年後の予測を上回る水準となっている。出生率が多少の上昇をみても、少なくとも向こう半世紀以上は人口増加に転じることはない。今や我々は人口減少を不可避な現実として正面から受け止め、それを前提に地域づくりを考えなければならない。そうなると、頼りになるのは、地域以外の方々だ。移住はしなくとも、心を寄せ、力を貸して下さる方々と交流を深めることが、必ず地域の力となる。そうした考えから、2017年１月に「飛騨市ファンクラブ」を設立した。

◎人口減少先進地の飛騨市は困難な課題ばかりであるが、飛騨市ファンクラブや楽しさにあふれたヒダスケ！活動をすすめることで、飛騨市に心を寄せてくださる方々の存在は、飛騨市の力となり、さらに困難な課題が地域資源になることを実感している。人口減少を止めることは、もちろん重要なことであるが、人口減少は不可避であると認識してこそ、新しい知恵や工夫が生まれる。そして、もう一つ重要なことは、困難と思える地域課題解決の中に楽しみを見つけることだ。人口減少時代のまちづくりのキーワードは、「楽しい、うれしい、面白い」だと言っている。その積み重ねの中に、人口減少時代を生き抜く知恵とエネルギーが生まれてくるのである。

パネルディスカッション　清酒発祥の地・伊丹～酒と文化が薫るまち～

兵庫県伊丹市長　藤原保幸

◎伊丹市は兵庫県の東南部に位置し、大阪府との県境にある面積２５平方キロのコンパクトな市域である。「清酒発祥の地」の歴史は戦国時代まで遡る。織田信長配下の荒木村重は、伊丹城を攻め、城主の伊丹氏を追放するとともにその城を「有

岡城」と改め、城下町まで堀と土塁で囲う大規模な工事を行った。しかし、村重は信長に離反したため、信長に城下町を焼かれてしまったが、まちは生き残り、焼け跡から現代まで残る酒造業が華開いた。本市鴻池地区にはのちに鴻池財閥となる山中本家があり、国内で初めて現在の「清酒」である澄酒を開発した。上方である伊丹から江戸に送られた酒は「下り酒」と呼ばれ、「伊丹酒」「伊丹諸白」「丹醸」などと称され、100万都市江戸で人気を博した。

◎本市では、清酒づくりで紡がれた歴史・文化だけでなく、子育てや通勤など日常生活の利便性にも優れている。伊丹のまちの魅力は日々市民によって培われており、まちを盛り上げている主役は市民である。人口減少時代にあっても、まちが将来にわたって発展していくために市民主体のまちづくりを進め、「選ばれるまち」としてこれからも進化しつづけることが重要であると考える。

調査先（主な質疑・応答内容）　／　研修（受講後の感想）

今回の講演、パネルディスカッションを聞く中で、多くの講師、パネラーが共通して口にしていたことは、「選ばれるまち」と「交流人口」である。この二つのことばが、今回の会議のキーワードであると感じた。

まずは、自分の住むまちの魅力を認識することから始まり、「選ばれるまち」として、市としての明確な将来ビジョンを定めていくことが必要であり、まちが何を目指しているのかを内外に発信し、それに共感した人々が集うことにより、「選ばれるまち」となり、活気のあるまちづくりに繋がると感じた。

二つ目のキーワードである「交流人口」は、少子高齢化による人口減少社会において、地域間で住民の奪い合いをするのではなく、「交流人口」を増やすことが、この問題の有効な解決策であると感じた。地域外の方々が、地域の魅力をみつけ、移住するのではなく地域に通っていただき、交流を深め、まちを盛り上げていただく、という「交流人口」の増やし方も学ぶことができた。

調査・研修の成果・考察
（瀬戸市への反映・自己の能力開発への寄与等）

本市が、「選ばれるまち」なるには、「交流人口」を増やすには、本市の持つポテンシャルである千年以上続く、「やきもの」の歴史、「自然豊かな環境」を再認識するとともに、本市のもつ魅力を内外に積極的にＰＲし、「このまちをどうしていきたいのか」を明確にすることにより、本市に訪れる人を増やし、本市を愛する「サポーター」を獲得することが、重要であると感じた。

行程表

乗り換え案内ジョルダン　http://www.jorudan.co.jp/

※往復利用の場合は、往復料金を入力してください。

日付	出発駅	交通手段	片道／往復	到着駅	距離		交通費 運賃		交通費 特急料金 等	
4	中部国際空港	飛行機	片道	熊本空港	603	km	31,640	円		円
年						km		円		円
10						km		円		円
月						km		円		円
12						km		円		円
日付	宿泊先名称				TEL		宿泊料金			
	ANAクラウンプラザホテル長崎				095-818-6601					円
備考欄										

31,640 円

日付	出発駅	交通手段	片道／往復	到着駅	距離		交通費 運賃		交通費 特急料金 等	
4						km		円		円
年						km		円		円
10						km		円		円
月						km		円		円
13						km		円		円
日	宿泊先名称				TEL		宿泊料金			
	ANAクラウンプラザホテル長崎				095-818-6601					円
備考欄										

小計　0 円

日付	出発駅	交通手段	片道／往復	到着駅	距離		交通費 運賃		交通費 特急料金 等	
4	長崎駅ターミナル	バス	片道	長崎空港		km	1,000	円		円
年	長崎空港	飛行機	片道	中部国際空港	671	km	34,240	円		円
10						km		円		円
月						km		円		円
14						km		円		円
日	宿泊先名称				TEL		宿泊料金			
										円
備考欄										

小計　35,240 円

パック等による割引など　5,190 円

宿泊費　合計　0 円

交通費　合計　66,880 円

申請額合計（宿泊費+交通費-割引代）
61,690 円